

特集

薬剤師の情報福袋

新薬, 診療GL, etc詰め合わせ

2024年から2025年にバトンをつなぐ

2024年を振り返ると、良し悪しにつけいろいろなことが起きた。感慨深い話題としては、オリンピックやメジャーリーグで日本人が大活躍した。体格の劣る日本人がスポーツの世界で活躍できるのは単純にうれしいし、国を越えて超人的なパフォーマンスには息を呑む魅力がある。驚いたことには、人工知能(AI)を用いたタンパク質の構造予測がノーベル化学賞を受賞した。革新的ではあるものの評価の定まらぬAIという技術が学術的に認められたことに大きな驚きを隠せないが、学問の新しい扉が開いたような感覚も覚えた。

一方、度重なる災害が日本列島を襲った。特に、能登半島は地震や豪雨に見舞われ、いまだ避難所や仮設住宅暮らしを続けている方がいらっしゃる。タイ、ミャンマー、ネパール、中国、台湾など東南アジアや東アジアで大規模な洪水が報告されただけでなく、砂漠の地ドバイでも過去75年間で最大の降水量を記録し、たった1日で街が冠水した。被害に遭われた方々に、あらためてお見舞いを申し上げる。

『薬局』2025年1月号のテーマは「薬剤師の情報福袋 新薬, 診療GL, etc詰め合わせ」である。先に取り上げたスポーツイベント、学術の発展、災害には、すべて何らかのかたちで医療が関係する。それは目的となることもあり、ツールにもなることもある。そのなかで、薬はその重要な

位置を占める。薬剤師に求められること、それは常に薬に精通していることである。だから『薬局』は年に一度最新の薬とガイドラインをまとめ、みなさまと共有する。そして、新年の第一号として、病院、薬局、地域における先進的な薬剤師業務の変化について3名の著者に執筆していただいた。折しも、2024年は診療報酬の改定があり、それと相まって業務を見直す施設も多々あるだろう。ぜひ本書を参考にしていきたい。

2025年、太陽活動が最も活発になる「極大期」となり、太陽フレアの発生も多くなるそう。大きな災害につながらないことを祈るが、備えあれば憂いなし、薬の知識の整理整頓は年始早々にしておきたい。

千葉大学医学部附属病院 薬剤部 教授・部長

石井 伊都子